

羽区
新地

ふくしの和

題字 長澤 茂

第11号

発行 横浜市港北区
新羽地区社会福祉協議会
会長 中村 信男
編集人 松村 清見
港北区新羽町2445
☎(542)7681

ごあいさつ

新羽地区社会福祉協議会

会長 中村 信男

新羽地区社協がスタートしてから六年目、基礎がようやく固まってきたところで、前会長小山勇吉様が、病のため退任されてしまいました。ご本人としても、さぞかし不本意だったと思いますが、急にあとを引受けることになった私も、大いに面くらっております。

私も民生委員を五年間つとめ、福祉の何たるかを、多少心得ているつもりですが、なかなか、急速な高齢化と核家族化、少子化等により、ますますきびしい環境になってきた老人問題が気になってなりません。

今六十五才以上の高齢者は、全国で七人に一人といわれております。(市港北区では十人に一人)

今後寝たきり老人、痴呆老人、独居老人は確実にふえ続けていくでしょう。しかも、頼りとする国や地方自治体の財政は、私たちの期待に十分応えてくれる状況にあるまい。

最近の厚生省の調査によると、

高齢者でなくなった方の四人に一人は、半年以上寝たきりの状態であつたというし、一年以上寝たきりだった人は、百人中十七人といえます。病、病院等に入れない患者を看護する家族や親族の労苦は察するに余りあります。

今問題になっている公的介護保険制度の導入について、橋本総理は、強い意欲をみせていますが、実現するとしても、まだ先のことであります。

地域社会として、地区社協として、このような重い課題にどう対処すべきか、真剣に考える時期がきていることを、皆さんに訴えて、会長就任のあいさつといたします。

「心豊かで、逞しい
子供達の育成を願って」

新羽中学校長 小林 節子

四月より新羽中学校へ赴任いたしました。緑豊かで落ち着いた環境の中で、生徒が生き生きと諸活動に取り組んでいます。また、いろ

いろな会合で、地域の方々とお会いするたびに、皆様の心の温かさを感じ、大変嬉しく思っております。今の社会は、物質的に豊かになったが、人間関係が希薄化する傾向にあると言われております。

確かに、少子化・核家族化ということ、子供達の様子を見ておりますと、生活体験、社会体験、異年齢者との交流、社会性が不足しているかもしれません。また、高度経済成長の波に押されて、心の豊かさや、他人への思いやり等が、おざなりにされていたかもしれません。今、子供達をとりまく、憂慮される様々な問題は、歪んでしまった社会の縮図なのかもしれません。このような時であるからこそ、学校・家庭・地域の連携を密にすることや、地域ぐるみの福祉活動を積極的に行うことが大切だと思えます。幸にして、新羽の子供達は、明るく伸び伸びと生活しています。家庭や地域の皆様の愛情に包まれて育てられているからだと思います。学校・家庭・地域の連携と信頼を、一層深めていきたいと思えます。よろしくお願い致します。

新田小学校に赴任して

新田小学校長 市川 敦子

梅雨明け宣言とともに、暑い夏がやってまいりました。元気な子供たちに、恰好な季節です。朝、坂をのぼっての登校で汗だくの姿をみると、私も人の子の親、母親の目で「ハンカチで汗を拭きふこうね。」との一声から、その日はじまります。地域の方々と、日頃子ども達がお世話になっていることと思います。誠に有りがとうございます。

先日、本校で学習発表会がございました。二・四・六年の会でした。児童が心を込めて招待状をつくり「みどり園」にお出ししましたところ、職員の方々の介助をえて、お年寄りの方々が見に来て下さいました。三年ぶりということ、子ども達は大変喜び、演技もはりきってやっておりました。お客さまに「ご感想は？」とうかがいましたところ、「若々しく、子どもらしく、がんばってやっている姿を見て、元気が出ました。」とのことでした。日頃、このように若い世代とお年寄りの人たちが、ふれあいを持つことは、子どもにとっても非常に有意義なことであると常々考えております。

それこそ、心の豊かさを育てる身近な第一歩でもあります。地域の方々の温かいご支援のもと、これからもいろいろな経験を子ども達にさせる中で、教職員も育っていければよいと考えております。

今後、皆様のいろいろな力を借りて、前進していきたいと思っております。ご指導、ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

新羽地区社会福祉協議会

会長	中村 信男
相談役	長澤 茂
副会長	金子 勇吉
常任理事	土岐 章
理事	中村 賢治
監事	米山 孝子
会計	永井 喜雄
委員	鈴木 義一
委員	岩崎 和雄
委員	鎌田 弘憲
委員	中山 幹雄
委員	秋本 清一
委員	中村 徳次
委員	西山 登
委員	米山 滋雄
委員	桑畑 良周
委員	柴田 宏
委員	中山 福平
委員	金子 太郎
委員	小澤 吉
委員	長澤 茂
委員	中村 信男
委員	松村 清見
委員	小嶋 章臣
委員	飯塚 昭
委員	東海林 紀子
委員	宇高 由美子
委員	白石 明子

はじめまして！
「かしの木ホーム」です。

所長 難波 侯子

花の季節四月、私達障害者地域作業所「かしの木ホーム」は、四年間過ごした新吉田から新羽町八三番地に移転し、皆様の仲間入りをさせていただきました。

新羽地区社会福祉協議会のお力添えをもちまして移転後の活動も順調に運び、所員十五名新しい環

も地域の中で、一市民としてごくあたりまえに暮らせる地域社会の実現を願い、地域の皆様の理解と共感を得ながら共に生きる社会が私達の目指すところです。

作業所の運営は自主運営です。幸い運営委員長に中之久保町会長米山滋様をお迎えし、地域の民生

障害者地域作業所

かしの木ホーム



〒223 横浜市港北区新羽町833
TEL & FAX 546-4079

も運営に加っていただきました。これからは、地域の皆様に愛される作業所作りに努力して参りますのでどうぞ皆様方のあた

境の中で毎日元気に通所しています。

障害者地域作業所とは、心身にハンディをもった人達が、地域の中で軽作業を通して働く喜びを経験し、社会参加が出来るように援助をする場所です。

障害をもった人も、もたない人

通所者は皆、心やさしい人達です。私達職員（援助者）は、毎日彼らから、やさしさや思いやりの心を教えられます。

今日もあつい日ざしの中、「お早よう」の元気な声が聞こえてきます。

第二回

地域ささえあい懇談会

去る七月十六日新田地区センターにおいて開かれました。

「ひとりぐらし高齢者等定期訪問について」どのように進めるべきか、区役所、保健所より数名参加され町内からは自治会、町内会役員、民生委員、保健指導員、老人友愛活動推進員等より約四十名で三グループに分かれて懇談されました。現在町内に対象者二十八名です。



病床六尺（一）

小山 勇吉

俳人・子規が言われた言葉を、標題にお借りしました。

約三カ月間の入院生活を過した私には、直ぐこの言葉が浮びました。本当に、老いることは、たった六尺の世界でした。

▽ 桜の時の四月というものは、

高熱、酸素吸入、多量の点滴注射；等で、頭はモウロウとしていて、会話は出来ても、何を言ったのか全く覚えていないのです。後で家の者から「筋の通らないことばかり口にしてた」と聞き病室までいらして下さった方々には、不快な思いをされたのではなかろうか？とお詫びいたします。

▽

まとまりのない毎日の病床では思索は無理でした。一カ月が過ぎて体温も落ち着いた或る日、字を書こうとしても手が大きく震えて鉛筆が満足に握れません。これには自分でも驚く。（当時は食器を震える両手でやつと持ち口に運ぶ始末）

『どうなることか？...』

▽

A新聞に載っていた文章です。「一両親が、特に男が最も大事にすべきものは、家庭だと思っています。親の日常の姿を見て、子どもは育ち、やがて巣立っていきます。今、注目されている「いじめ」や「ぎやく待」の問題など社会問題になっていますが、主とし

て両親を中心とした家庭の問題ではないのでしょうか。」

▽

闘病生活、入院生活も同じことが言えると思います。

身動きひとつ満足に出来ない患者にとっては、「本人の病気には負けない」の気力は勿論、家族の温かさ、家庭の明るさが、回復したいと意気込むバックボーンになっていると思えてならないのです。

新羽地区行事予定

○ キャンプ ― このま沢 ―

八月四・五日

○ フェスティバル ― 新羽中学校 ―

八月三十一日

○ 子供相撲大会 ― 新羽小学校 ―

九月一日

○ 健民祭 ― 新羽中学校 ―

十月二十日

○ 五九二―二九三八 萩原

五九一―三一五八 堀内

編集後記

今年の夏はアトランタオリンピックが開催されたのと、大腸菌O-157の食中毒で国中話題になりました。

内山、中山両編集委員が退任されました。新たに宇高、白石が委員になりましたのでよろしくお願ひ致します。

（宇高・白石）

